

## 第119回 静岡大成中学校、静岡大成高等学校 開校記念式典 校長挨拶

本日、静岡大成中学校・静岡大成高等学校、第119回開校記念式典を挙げていただけますことを大変嬉しく思います。ご来賓の皆様には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

本校の開校記念日は5月30日で、今日はそれを祝う式典です。なぜ5月30日が開校記念日かは、昨年度もこの場で話しましたが、1年生も入りましたので改めて説明します。

理由は2つあります。一つは、1930年に、天皇陛下が静岡県に視察に訪れ、側近の本多侍従が本校を視察した日だからです。天皇陛下の学校視察は、県内で2校のみという大変名誉ある事でした。

もう一つは、1948年に、新校舎完成の「復興記念式典」が行われた日だからです。本校は、1945年6月19日の静岡大空襲により、校舎が全焼し何もかもが灰になってしまいました。校舎再建のため、保護者、同窓生、生徒が必死になって資金を集め、ようやく新校舎が完成し学校が再建されました。この静岡大空襲では、約2,000人の静岡市民が亡くなり、本校でも3人の生徒が命を落としています。開校記念日は、お祝いの日であると共に、二度と戦争を起こしてはいけない、という気持ちを、改めて心に刻む大切な日でもあります。ぜひ覚えておいてください。

さて、今日は、本校創立者の杉原正市先生と、当時先生が行った教育について少し紹介したいと思います。

杉原先生は、四国は徳島県に生まれ、23歳で教師となり、徳島の師範学校で、外国語や理科系の科目を中心に教えていました。教え方が大変熱心であり、生徒たちからも慕われていたことを見込まれ、教員を探していた浜松から声がかかり、29歳の時に、住み慣れた徳島を離れ、浜松の地に赴任いたしました。

そして、32歳で浜松中学、今の浜松北高校の初代校長に、39歳で静岡中学、今の静岡高校の初代校長になるなど、静岡県の教育に大きく貢献されました。50歳で公職を退いた後も、静岡県内外の私立学校の発展に尽力されていました。

このように、杉原先生は、長年にわたり男子教育の先頭に立って、男子の教育のみに従事されてきましたが、次代を担う女子の教育がこれからは重要であると考え、55歳の時、一大決心を固め、私立静岡精華女学校を創立したのです。そして、女子のための新しい教育活動を次々と実践していきました。たとえば、外国人講師を招いた英会話授業、6泊7日の修学旅行、毎月の遠足、富士登山などを実施しました。また、スポーツと弁論を奨励し、テニス部、バレーボール部、陸上部、バスケットボール部、卓球部、弁論部を次々と作り、陸上、テニス、バスケットボール部は全国制覇も成し遂げました。今は男女問わず当たり前のようにある行事や部活動ですが、杉原先生は、時には周囲の反対もある中で、信念をもって新しいことに挑戦しました。学校を一つの家庭と考え、生徒には厳しく温かく接し、学問だけでなく、一人の人間として、心身ともに立派に成長してほしいというのが、杉原先生の理想とする考え方でした。

今もその考え方は、「時代に即応する新しい人材の育成」という、本校の建学の精神によって受け継がれています。私は、「時代に即応する新しい人材」とは、「いつの時代にも求められる人」だと考えます。それは、「自分の力で考え判断できる人、相手の立場に立って考えることができる人」であると思います。そのような人になることを生徒の皆さんに期待して、私の挨拶といたします。

令和4年5月26日

静岡大成中学校・高等学校  
校長 山田 隆司